



解決済みの問題

Cisco バグ検索ツールを使用して、未解決の問題、解決済みの問題、およびセキュリティ修正を表示できます。

- Cisco UCS X シリーズ M8、M7 6.0(2.260069) および C シリーズ M8 6.0(2.260069) サーバファームウェア リリースの解決済みの問題 (2 ページ)
- B シリーズ M5 サーバファームウェア リリース 6.0(1.260012) の解決済みの問題 (4 ページ)
- Cisco UCS X シリーズ M8、M7、M6 6.0(2.260040)、XE シリーズ M8 6.0(2.260042)、C シリーズ M8、M7、M6 6.0(2.260044)、および B シリーズ M6 6.0(2.260040)サーバ ファームウェア リリースの解決済みの問題 (4 ページ)
- XE シリーズ M8 サーバファームウェア リリース 6.0(1.260001) の解決済みの問題 (8 ページ)
- C シリーズ M8 サーバファームウェア リリース 6.0(1.250194) の解決済みの問題：なし (10 ページ)
- Cisco UCS X シリーズ M7 6.0(1.250179) および C シリーズ M7、M6 6.0(1.250192) サーバファームウェア リリースの解決済みの問題 (10 ページ)
- XE シリーズ M8 サーバファームウェア リリース 6.0(1.251030) の解決済みの問題：なし (11 ページ)
- X シリーズ M8 サーバファームウェア リリース 6.0(1.252039) の解決済みの問題：なし (11 ページ)
- Cisco UCS X シリーズ M8 6.0(1.250162) および C シリーズ M8、M6 6.0(1.250174)サーバファームウェア リリースの解決済みの問題 (11 ページ)
- Cisco UCS X シリーズ M8、M7 6.0(1.250122)、M6、B シリーズ M6、M56.0(1.250127) および C シリーズ M8、M7、M6 6.0(1.250131)サーバファームウェア リリースの解決済みの問題 (15 ページ)
- Cisco UCS C シリーズ M8、M7 および M6 6.0(1.250127)サーバファームウェア リリースで解決された不具合 (16 ページ)

Cisco UCS X シリーズ M8、M7 6.0(2.260069) および C シリーズ M8 6.0(2.260069) サーバファームウェア リリースの解決済みの問題

ここでは、解決済みの問題について簡単に説明します。

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwt34870	ファームウェア バージョン 6.0.2.260044 を実行している Cisco UCS C シリーズ サーバーでは、プライベート企業 OID で snmpget 操作を実行すると、簡易網管理プロトコル (SNMP) サービスが応答なくなり、その後 snmpwalk 要求が失敗する場合があります。サービスが応答しなくなった場合は、ベースボード管理コントローラ (BMC) を再起動するか、SNMP サービスを無効にして再度有効にすることでサービスを復元できます。 この問題は解決されました。	C シリーズ : 6.0 (2.260044)	C シリーズ : 6.0(2.260069)

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwt18924	アップストリーム Cisco ACI ファブリックのアップグレードまたはリロード後、Cisco UCS VIC アダプタが vNIC をオンラインにできない場合があります。アダプタの物理インターフェイスは起動しますが、vNIC は初期化状態のままになり、自動的に回復しません。アダプタログにアダプタでメモリ不足状態が発生していることが示され、その後リセットが行われる場合があります。この問題は、Cisco UCS VIC 1400 シリーズおよび 15000 シリーズアダプタの 10GBase-T (10G-TX) トランシーバで観察され、トランシーバが I2C バスを保持している場合、スイッチまたはサーバのリロードイベント中にトリガーされ、アダプタのメモリリークの原因となる可能性があります。 この問題は解決されました。	C シリーズ : 4.3(5.250030)	C シリーズ : 6.0(2.260069)
CSCwt42347	ホストファームウェアパッケージ (HFP) をリリース 4.3 (2) から 6.0 (2) にアップグレードする際、UCSX-X10C-RAIDF コントローラを搭載した Cisco UCS X シリーズサーバでは、ハードウェア構成を確認するための準備の段階で障害が発生し、結果としてユニファイド BIOS 管理 (UBM) アップグレードがハングします。ファームウェアの更新プロセスが完了せず、BMC ログには更新プロセスが無限に実行されていることが示されます。 この問題は解決されました。	X シリーズ:6.0 (2.260040)	X シリーズ : 6.0(2.260069)

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwt35920	スペアとして出荷された特定の RTX Pro 6000 GPU では、ファームウェア更新が失敗し、古いファームウェアバージョンのままになる場合があります。この問題は、特定のスペアユニットに限定され、更新プロセス全体には影響しません。 この問題は解決されました。	X シリーズ : 6.0 (2.260040) C シリーズ : 6.0 (2.260044) X580p PCIe ノード : 6.0 (2.260043)	X シリーズ : 6.0(2.260069) C シリーズ : 6.0(2.260069) X580p PCIe ノード : 6.0(2.260069)

B シリーズ M5 サーバファームウェア リリース 6.0(1.260012) の解決済みの問題

ここでは、解決済みの問題について簡単に説明します。

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwr21671	Windows Server 2019 (Megasas2 ドライバ) を実行する LSI 12G RAID コントローラを搭載した Cisco UCS B200 M5 サーバでは、RAID コントローラで L2/L3 キャッシュエラーが検出される場合があります。これにより、ストレージコントローラが動作不能になり、Cisco IMC はコントローラを検出できなくなります。 この問題は解決されました。	4.2 (3e)	5.4(0.260011) 6.0(1.260012)

Cisco UCS X シリーズ M8、M7、M6 6.0(2.260040)、XE シリーズ M8 6.0(2.260042)、C シリーズ M8、M7、M6 6.0(2.260044)、および B シリーズ M6 6.0(2.260040) サーバファームウェア リリースの解決済みの問題

ここでは、解決済みの問題について簡単に説明します。

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCws30219	Cisco UCS M7 サーバは、ランタイム時に ECC エラーが原因でホストのロックが発生する場合があります。BIOS が変数を正しく取得できないため、EFI が無効なパラメータを返し、ログや Cisco IMC アラートなしでホストがフリーズします。ホストは応答不能になり、KVM 入力を受け入れられません。 この問題は解決されました。	X シリーズ M7:5.4 (0.250048) C シリーズ M7:4.3 (6.250053)	X シリーズ M7 : 6.0(2.260040) C シリーズ M7 : 6.0(2.260044)
CSCwb62117	Brocade SAN スイッチと Dell storage アレイに接続された LPe35002-M2 Emulex アダプタを搭載した Cisco UCS C240-M8 サーバで、断続的な I_T NexusLoss エラーが発生し、接続が不安定になり、LUN が定期的に切断されます。FCP I/O はエラーなしで完了しますが、アダプタは繰り返し接続の再確立を試みます。LOGO および FLOGI コマンドを発行することで、問題が再発する前に一時的に接続を復元します。 この問題は解決されました。	4.3(6.250053)	6.0(2.260044)
CSCwr51315	Cisco UCS X シリーズ サーバで、NVMe ドライブ (ファームウェア E2CS005 の UCS -NVMEG4-M7680) は、予想される Cisco SSID 4800 ではなく SSID 5000 を表示します。この不一致により、コンプライアンスチェックが失敗し、ディスクが「unclaimed (未要求)」としてマークされます。 この問題は解決されました。	6.0(1.250120)	6.0(2.260040)

Cisco UCS X シリーズ M8、M7、M6 6.0(2.260040)、XE シリーズ M8 6.0(2.260042)、C シリーズ M8、M7、M6 6.0(2.260044)、および B シリーズ M6 6.0(2.260040) サーバー ファームウェア リリースの解決済みの問題

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwr73352	複数の Cisco UCS X210c M7 サーバで、BMC ウォッチドッグのハードリセットによってトリガーされた Cisco IMC の再起動が発生します。これにより、再起動中にサービスプロファイルに一時的にアクセスできなくなります。この動作は、リセットイベント中のサーバ管理の可用性に影響を与える可能性があります。この問題は解決されました。	5.2(1.240010)	6.0(2.260040)
CSCwq55604	すべての Cisco UCS C245 M8 統合サーバの DIMM_P2_H1 が動作不能として報告されますが、実際にはすべての DIMM がメモリ エラーなく正常に機能します。この問題は、サーバがサポートされている同一の DIMM モデルをフルに装着しているにもかかわらず、機器の動作不能とサーバファームウェアの非互換性を示すアラートをトリガーします。この問題は解決されました。	4.3(5.250001)	6.0(2.260044)
CSCwq17020	UCSX-X10C-RAIDF コントローラの背後に 3.8TB 以上の容量の U3 Micron ドライブを JBOD モードで取り付けした後、EFI ブートイメージのロードに関連する BIOSerrors が原因で Linux OS が起動に失敗します。この問題は、特に Intel® プロセッサを搭載した Cisco UCS X シリーズ M8 サーバーで発生し、複数の Linux ディストリビューションに影響します。ドライブが RAID0 で構成されている場合、問題は発生しません。より小さい容量のドライブを使用している場合、または RAID0 を使用している場合、Microsoft Windows® および Linux OS は正常に起動します。この問題は解決されました。	X210c:5.4 (0.250037) X215c:5.4 (0.250035)	6.0(2.260040)

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwr82017	Cisco UCS X210c M8、C220 M8、および C240 M8 サーバでは、IntelSGX を有効にし、システムメモリ設定でプロセッサ予約済みメモリ範囲レジスタ (PRMRR) サイズをサポートされていない値に設定すると、システムが継続的に再起動します。サポートされていないサイズが構成された時のみにこの問題が発生します。 この問題は解決されました。	X シリーズ M8:6.0 (1.252114) C シリーズ M8 : 6.0 (1.250192)	X シリーズ M8 : 6.0(2.260040) C シリーズ M8 : 6.0(2.260044)
CSCwr82475	Cisco Unified Edge サーバー UCSXE-130C-M8 において、UEFI セキュアブートモードでファームウェアをバージョン 6.0 (1.250003) から 6.0 (1.251026) にアップグレードした後、タイミングや競合状態 (レース コンディション) に起因して、BMC ブート時に FIT4 レコードをセカンダリ サービス プロセッサ (SSP) へ転送する処理が失敗する場合があります。これにより、必要な認証ハンドシェイクが防止され、ホストシステムの POST がハングします。 BIOS POST の完了の失敗 エラーが表示され、次のようなメッセージがログに記録されます。 • peci command(0xa1) failed: 0x63 • peci rdpkgconfig command (0xa1) failed (result code: 0x63, addr: 0x30) • ast2600-ssp ahb:secondary-service-processor: Kicking SSP vqid = 1 回避策 : 問題を解決するために BMC を再起動します。	XE シリーズ M8 : 6.0 (1.250003)	XE シリーズ M8 : 6.0(2.260042)

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwr05911	Cisco Unified Edge サーバでは、ホストの電源がオフになると、IMM インベントリ ページには、eCMC:A で LOM- NIC-1 インターフェイスが eCMC:B でアップとして表示されますが、eCMC:B では asdown と表示されます。この不整合は、ホストの電源がオフの場合にのみ発生します。この問題による機能への影響はありません。 この問題は解決されました。	XE シリーズ M8 : 6.0 (1.251030)	XE シリーズ M8 : 6.0(2.260042)
CSCvr45526	特定の Cisco UCS サーバで、セキュア ブート データベース内の検証エラーが原因でブートの中断が発生します。この問題は、システムのスタートアップ中に特定のサーバモデルに影響を及ぼし、起動の中断を引き起こし、システムの信頼性に影響を与える可能性があります。この問題は、正常なセキュアブートプロセスを妨げるセキュアブートデータベース内の古い証明書が原因で発生します。 この問題は解決されました。	C シリーズ : 4.3 (6.260017) B シリーズ : 5.4 (0.260011)	C シリーズ : 6.0(2.260044) B シリーズ : 6.0(2.260040)

XE シリーズ M8 サーバ ファームウェア リリース 6.0(1.260001) の解決済みの問題

ここでは、解決済みの問題について簡単に説明します。

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwb24234	Cisco UCS XE130c M8 コンピューティング ノードでは、UCS-M2-HWRAID MINI STOR コントローラが見つからないが、そのキャリアがインストールされている場合、システム ログが unable to read fru information エラーで継続的にフラッシュします。 ファームウェアをアップグレードすると、問題が解決します。 アップグレード後も同じエラーが続く場合は、M.2 コントローラとそのキャリアの両方が正しく装着され、取り付けられていることを物理的に確認します。	6.0 (1.251030)	6.0(1.260001)
CSCws22743	Cisco UCS XE130c サーバーでは、L4/L40S GPU で、競合状態が原因で x8 幅および GEN 1 速度へのリンクダウングレードが発生する場合があります。これは、GPU のパフォーマンスを低下させる可能性があり、通常は、リンクがダウングレードされたり、レーンの幅が縮小された場合に発生します。 リンクダウングレードから回復するために、デバイスを通常の動作に戻すという回避策が導入されました。	6.0 (2.250123)	6.0(1.260001)

C シリーズ M8 サーバファームウェア リリース 6.0(1.250194) の解決済みの問題：なし

Cisco UCS X シリーズ M7 6.0(1.250179) および C シリーズ M7、M6 6.0(1.250192) サーバファームウェア リリースの解決済みの問題

ここでは、解決済みの問題について簡単に説明します。

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCws30219	Cisco UCS M7 サーバは、ECC（エラー訂正コード）メモリイベントによってトリガーされたホストロックアップの影響を受けます。 これは、エラー状態時にサーバの BIOS が EFI（Extensible Firmware Interface）と通信する仕組みに特に関連しています。これらのイベント中、BIOS は必要な変数を正しく取得せず、EFI は無効なパラメータを返します。その結果、オペレーティングシステムは通常の動作を続行できず、エラーをログに記録せずにフリーズします。これが発生すると、ホストは応答しなくなり、KVM（キーボード、ビデオ、マウス）入力は受け入れられません。 シングルビット ECC エラー（DDR5 仕様によりログは記録されません）がこの状態をトリガーする可能性があり、その結果、ホストの応答性が完全に失われます。	X シリーズ M7:5.4 (0.250048) C シリーズ M7:4.3 (6.250053)	X シリーズ M7 : 6.0(1.250179) C シリーズ M7 : 6.0(1.250192)

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwi71153	Cisco UCS C シリーズ M6 サーバでは、カーネルスケジューラの null ポインタの逆参照によって引き起こされたウォッチドッグリセットが原因で、BMC リセットが発生します。 さらに、サーバでカーネルパニックが発生する場合があります。	4.2(3b)	C シリーズ M6 : 6.0(1.250192)

XE シリーズ M8 サーバファームウェア リリース 6.0(1.251030) の解決済みの問題：なし

X シリーズ M8 サーバファームウェア リリース 6.0(1.252039) の解決済みの問題：なし

Cisco UCS X シリーズ M8 6.0(1.250162) および C シリーズ M8、M6 6.0(1.250174)サーバファームウェア リリースの解決済みの問題

ここでは、解決済みの問題について簡単に説明します。

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwq61388	CIMC 4.3.5 以降を実行している Cisco UCS C シリーズ M6 サーバーで、複数の NVMe ドライブがある状態で BIOS の VMD を有効にすると、ストレージ サブシステムの初期化が 15 分を超え、Intersight サーバー プロファイルの展開が失敗する可能性があります。 この問題が発生する可能性は、取り付けられているドライブの数が増えると増加します。 VMD を無効にするか、ドライブの数を減らすと、問題を解決できます。	4.3(5.250001)	6.0(1.250162) 6.0(1.250174)
CSCwq74490	AMD EPYC 9655 プロセッサを搭載した Cisco UCS C245 M8 プラットフォームにおいて、NVIDIA L4 GPU をフル構成で搭載し、Linux Rebooter ストレステストを実行すると、異なるスロットでランダムに PCIe リンク幅が低下する現象が発生します。AC 電源の再投入や HUU の更新などのアクション後に、影響を受けるスロットが変更された。たとえば、最初にスロット 2 および 6 がダウングレードされた場合、これらのアクション後に他のスロットがダウングレードされる可能性があります。これにより、OS 環境で GPU の動作速度が低下する可能性があります。	4.3(6.250053)	6.0(1.250162) 6.0(1.250174)

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwq01863	スタンドアロン モードの Cisco UCS C225 または C245 M8 サーバでは、636 以外のポートでセキュア LDAP (LDAPS) を構成すると、サーバはセキュアではなく標準規格の LDAP 接続を試行し、LDAPS 認証が失敗します。 セキュアな LDAP 接続には常にポート 636 を使用します。他のポートは LDAPS では動作しません。	4.3(6.250044)	6.0(1.250162) 6.0(1.250174)
CSCwr24516	Cisco UCS X210c M8 では、特定のベンダーのハードウェア部品（インダクタ）が含まれている場合、一部のサーバーの電源がオンにならないか、または起動しない場合があります。この問題により、スタートアップに失敗し、サーバーの電源を入れようとしてもオフのままになります。この問題は、新しいハードウェア部分の動作の違いによって発生しますが、この新しいコンポーネントをサポートするように設計された最新の VR（電圧レギュレータ）イメージにボードを更新することで、完全に解決できます。 最新の VR イメージでサーバーを更新し、電源投入時のエラーをクリアして、サーバーの電源をオフにしてから再度オンにします。それでもサーバーが起動しない場合は、Cisco TAC に連絡してサポートを受けてください。	6.0(1.250126)	6.0(1.250162) 6.0(1.250174)

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwp91696	Cisco UCS X215c M8 サーバでは、サーバがすでに実行されているときに E3.SNVMe ドライブを空のスロットに追加すると、ドライブは第 5 世代ではなく第 4 世代の速度で接続します。この問題は、起動中にスロットが空であり、オペレーティングシステムの起動後にドライブがホット挿入された場合にのみ発生します。 サーバーの電源を入れる前に、ドライブをスロットに挿入します。後から追加されたドライブは、サーバーが再起動されるまで第 4 世代の速度でのみ動作します。	6.0 (1.250065)	6.0(1.250162) 6.0(1.250174)
CSCwq01510	Cisco UCS X215c-M8 サーバーでは、オペレーティングシステムの起動時にこれらのスロットが空だった場合、スロット 8 またはスロット 9 の E3.SNVMe ドライブのホットプラグは ESXi または Windows で機能しません。起動後に追加または削除されたドライブは、OS によって検出されません。 回避策はありません。OS の起動中にスロット 8 とスロット 9 が空の場合、ホットプラグは機能しません。	6.0 (1.250086)	6.0(1.250162) 6.0(1.250174)

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwd93635	CIMC 4.3.5 以降のファームウェアを実行している Cisco UCS C240 M6 サーバでは、多数の NVMe ドライブと VMD が BIOS で有効になっている場合、ストレージサブシステムの初期化時間が長くなり、最大 50 分かかる場合があります。この遅延により、Intersight Server Profile のワークフローにおいて、特に「BIOS POST 完了の待機」ステップの後に、「ストレージサブシステムの初期化の待機」タスクが失敗する可能性があります。 可能であれば、BIOS で VMD をオフにして遅延を回避します。VMD をオンにしておく必要がある場合は、初期セットアップで使用する NVMe ドライブを減らしてみてください。ドライブが多いほど初期化に時間がかかるためです。	4.3 (6.250077)	6.0(1.250162) 6.0(1.250174)

Cisco UCS X シリーズ M8、M7 6.0(1.250122)、M6、B シリーズ M6、M56.0(1.250127) および C シリーズ M8、M7、M6 6.0(1.250131)サーバファームウェアリリースの解決済みの問題

ここでは、解決済みの問題について簡単に説明します。

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwq58890	Cisco UCS VIC 15000 シリーズ アダプタのファームウェアが更新され、まれに発生する断続的なメモリの問題が修正され、さまざまなメモリタイプおよび構成でより堅牢なかつ一貫性のある動作が保証されます。 (注) それでもメモリエラーが発生する場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。	X シリーズ : 6.0 (1.250120) B シリーズ : 6.0 (1.250126) C シリーズ : 6.0 (1.250127)	X シリーズ : 6.0(1.250122) B シリーズ : 6.0(1.250127) C シリーズ : 6.0(1.250131)

Cisco UCS C シリーズ M8、M7 および M6 6.0(1.250127)サーバファームウェアリリースで解決された不具合

ここでは、解決済みの問題について簡単に説明します。

不具合 ID	説明	影響を受ける最初のバージョン	リリースで解決済み
CSCwn99720	2 ソケットプラットフォームのシングルCPUセットアップで構成された Intel プロセッサと R1S CPU を搭載した Cisco UCS C シリーズ M8 サーバでは、Intel SGX は BIOS で有効にした後も無効のままになります。この問題は、デュアルCPU構成では発生しません。	4.3(6.250039)	6.0(1.250127) 4.3(6.250044)

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。